

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武蔵野美術大学
設置者名	学校法人武蔵野美術大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
造形学部	日本画学科	夜・通信	16	0		16	13	
	油絵学科	夜・通信				16	13	
	彫刻学科	夜・通信				16	13	
	視覚伝達デザイン学科	夜・通信				16	13	
	工芸工業デザイン学科	夜・通信				16	13	
	空間演出デザイン学科	夜・通信				16	13	
	建築学科	夜・通信				16	13	
	基礎デザイン学科	夜・通信				16	13	
	芸術文化学科	夜・通信				16	13	
	デザイン情報学科	夜・通信				16	13	
	油絵学科絵画コース・日本画コース・版画コース	夜・ <u>通信</u>	1		16	17	13	
	油絵学科絵画表現コース・日本画表現コース	夜・ <u>通信</u>			12	13	13	
	芸術文化学科造形研究コース・文化支援コース	夜・ <u>通信</u>			16	17	13	
	芸術文化学科芸術研究コース	夜・ <u>通信</u>			12	13	13	

	デザイン情報学科 コミュニケーションデザイン コース・デザインシステム コース	夜・ 通信			40	41	13	
	デザイン情報学科 デザイン総合コース	夜・ 通信			12	13	13	
造形構想学部	クリエイティブ イノベーション学科	夜・ 通信	16	12		28	13	
	映像学科	夜・ 通信				28	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>大学 web サイトにて掲載している。 https://www.musabi.ac.jp/student_life/curriculum/info/</p> <p>【通信教育課程】 通信教育課程 web サイトにて掲載している。 https://cc.musabi.ac.jp/campus/web-syllabus</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武蔵野美術大学
設置者名	学校法人武蔵野美術大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学 web サイトにて公開。
<https://www.musabi.ac.jp/outline/about/corporate/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	企業役員	2019年11月17日 ～2023年11月16日	経営計画の策定
非常勤	企業役員	2019年11月17日 ～2023年11月16日	経営計画の策定
非常勤	企業役員	2019年11月17日 ～2023年11月16日	経営計画の策定
非常勤	企業役員	2019年11月17日 ～2023年11月16日	経営計画の策定
非常勤	企業役員	2019年11月17日 ～2023年11月16日	経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武蔵野美術大学
設置者名	学校法人武蔵野美術大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、造形学部と造形構想学部の二学部制をとっており、授業計画の作成過程や公表時期は、以下の通り同様な対応をとっている。</p> <p>●授業計画のスケジュール</p> <p>7月：全学部・全学科対象の教務委員会・教授会にて、教育課程編成の方針確認</p> <p>9月：教務委員会にて、教育課程編成にもとづき授業計画の作成方法の他、成績評価の方法や基準について確認</p> <p>12月～1月：教員より授業計画やカリキュラムマップの提出</p> <p>2月：教員より提出された授業計画を事務所管（教務チーム）にて内容の確認</p> <p>3月：シラバス公開</p> <p>●授業計画の公表</p> <p>授業計画は、学生や教員の使用する教務システムの他、広く一般に公開する目的で、web サイトでも確認できるようリンクをつけている。</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>授業計画の成績評価は、「授業計画の到達目標に対応するように、客観的な成績評価の方法・基準（試験、出席、課題提出、レポート提出など）」を記述するようにしている。成績評価は基準ごとの割合（%）を記述するようにしている。</p> <p>【通信教育課程】</p> <p>通信教育課程において、授業計画の作成過程や公表時期は以下の通り行っている。</p> <p>●授業計画のスケジュール</p> <p>7月：通信教育課程教務委員会にて、次年度新規開講科目・廃止科目の審議、及び次年度開講科目・担当教員等の授業計画提出を依頼</p> <p>10月：シラバス作成依頼</p> <p>11月～1月：教員より提出された授業計画を事務所管（通信教育チーム）にて内容の確認</p> <p>3月：シラバス公開</p> <p>●授業計画の公表</p> <p>授業計画は、学生や教員の使用する教務システムの他、広く一般に公開する目的で、web サイト上でも公開している。</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>授業計画の成績評価は、「授業計画の到達目標に対応するように、客観的な成績評価の方法・基準（試験、出席、課題提出、レポート提出など）」を記述している。</p>

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大学 web サイトにて掲載 (http://syllabus.musabi.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)</p> <p>【通信教育課程】 通信教育課程 web サイトにて掲載 (https://cc.musabi.ac.jp/campus/web-syllabus)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、造形学部と造形構想学部の二学部とも以下の通り、学内の成績評価基準及び指針にもとづき、学生に対して客観的な方法・基準で判定している。

●成績評価基準及び指針

成績は素点 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。学生へは秀、優、良、可、不可の 5 段階の評価で成績を開示する。秀・優・良・可の評価が得られた科目については合格とし、その科目について定められた単位が授与される。試験を受験しなかった場合は「未受験」、出席が足りない場合は「対象外」となり、いずれも不合格としている。

素点	評価	評価基準
90 点以上	秀	当該科目の到達目標を大きく上回り、発展させている
80 点以上 90 点未満	優	当該科目の到達目標を上回っている
70 点以上 80 点未満	良	当該科目の到達目標を達成している
60 点以上 70 点未満	可	当該科目の到達目標に最低限達している
60 点未満	不可	当該科目の到達目標に達していない

・「可」と「不可」の間に合否ラインがあるが、授業計画の到達目標は、合否ラインの少し上にあるものとする考え方に基づいている。

・授業内容・到達目標・授業方法等に即した適切な成績評価の方法を授業計画にあらかじめ明示し、成績評価における客観性と厳密性を担保する。

●授業計画の書き方について

授業計画の到達目標には、大学の成績評価基準や指針に基づき記述するよう指導している。例えば、

- ・授業における学修の到達目標を、具体的に記述する
- ・受講生の到達目標と成績評価の方法との整合性をとる

本学では、造形学部と造形構想学部の二学部とも以上の通り、学内の成績評価基準及び指針にもとづき、学生に対して客観的な方法・基準で判定している。

【通信教育課程】

●成績評価基準及び指針

成績は素点 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。学生へは秀、優、良、可、不可の 5 段階の評価で成績を開示する。秀・優・良・可の評価が得られた科目については合格とし、その科目について定められた単位が授与される。

素点	評価	評価基準
90 点以上	秀	当該科目の到達目標を大きく上回り、発展させている
80 点以上 90 点未満	優	当該科目の到達目標を上回っている
70 点以上 80 点未満	良	当該科目の到達目標を達成している
60 点以上 70 点未満	可	当該科目の到達目標に最低限達している
60 点未満	不可	当該科目の到達目標に達していない

・授業内容・到達目標・授業方法等に即した適切な成績評価の方法を授業計画にあらかじめ明示し、成績評価における客観性と厳密性を担保する。

●授業計画の書き方について

授業計画の到達目標には、大学の成績評価基準や指針に基づき記述するよう指導している。例えば、

- ・授業における学修の到達目標を、具体的に記述する
 - ・受講生の到達目標と成績評価の方法との整合性をとる
- 本学では以上の通り、学内の成績評価基準及び指針にもとづき、学生に対して客観的な方法・基準で判定している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、造形学部と造形構想学部の二学部とも2019年度入学生より、GPAを導入している。

GPAは、各履修科目の成績評価としてGPを付与し、1単位あたりの平均点を出す成績評価方式をとっている。GPAでもfunctional GPA制度を導入して、素点による平均点とGPAの評価点に順位の逆転現象が起らないようにしている。

$$\text{GPA} = (\text{科目の単位数} \times \text{GP}) \text{の合計} \div \text{総単位数}$$

素点とGPの対比表

素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	
100	5.0	秀	89	3.9	優	78	2.8	良	67	1.7	可	
99	4.9		88	3.8		77	2.7		66	1.6		
98	4.8		87	3.7		76	2.6		65	1.5		
97	4.7		86	3.6		75	2.5		64	1.4		
96	4.6		85	3.5		74	2.4		63	1.3		
95	4.5		84	3.4		73	2.3		62	1.2		
94	4.4		83	3.3		72	2.2		61	1.1		
93	4.3		82	3.2		71	2.1		60	1.0		
92	4.2		81	3.1		70	2.0		0~59	0.0		不可
91	4.1		80	3.0		69	1.9		-	0.0		対象外
90	4.0	79	2.9	良	68	1.8	可	-	0.0	未受験		

【通信教育課程】

通信教育課程では、2020年度入学生より、GPAを導入している。

GPAは、各履修科目の成績評価としてGPを付与し、1単位あたりの平均点を出す成績評価方式をとっている。GPAでもfunctional GPA制度を導入して、素点による平均点とGPAの評価点に順位の逆転現象が起らないようにしている。

$$\text{GPA} = (\text{科目の単位数} \times \text{GP}) \text{の合計} \div \text{総単位数}$$

素点とGPの対比表

素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	素点	GP	評価	
100	5.0	秀	89	3.9	優	78	2.8	良	67	1.7	可	
99	4.9		88	3.8		77	2.7		66	1.6		
98	4.8		87	3.7		76	2.6		65	1.5		
97	4.7		86	3.6		75	2.5		64	1.4		
96	4.6		85	3.5		74	2.4		63	1.3		
95	4.5		84	3.4		73	2.3		62	1.2		
94	4.4		83	3.3		72	2.2		61	1.1		
93	4.3		82	3.2		71	2.1		60	1.0		
92	4.2		81	3.1		70	2.0		0~59	0.0		不可
91	4.1		80	3.0		69	1.9		-	0.0		対象外
90	4.0	79	2.9	良	68	1.8	可	-	0.0	未受験		

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学生に配付冊子「履修・学修ガイドブック」 大学 web サイトにて掲載 (https://www.musabi.ac.jp/student_life/curriculum/info/disclose/)</p> <p>【通信教育課程】 学生に配付冊子「学生ハンドブック」 大学 web サイトにて掲載 (https://cc.musabi.ac.jp/campus/gpa)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、造形学部と造形構想学部の二学部とも、最終学年の者が各学年に定められた卒業に必要な単位を全て修得した場合は、卒業としている。卒業所要最低単位の合計は、124単位である。

また、学部ごとにディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定めている。

●造形学部のディプロマ・ポリシー

教育目標の実現のため編成されたカリキュラムのもと、設定された科目を履修し、卒業制作または卒業論文・研究を提出したもので、卒業に必要な単位を修得したものに卒業を認め学士（造形）の学位を授与する。具体的には、造形分野における独自の探求を行い、創造的な表現活動を実現するために、以下の7点とする。

- ・専門的な知識を理解し深めることができる。
- ・専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- ・制作・研究を深め広げる技能を身につけている。
- ・他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
- ・批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
- ・論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
- ・制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

●造形構想学部のディプロマ・ポリシー

創造的思考力の応用発揮において独自の探求を行い、社会的イノベーションに寄与する人材として以下の7点について評価し、学位を授与する。

- ・専門的な知識を理解し深めることができる。
- ・専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- ・創造的思考力を深め広げる技能を身につけている。
- ・他者に伝える表現能力及び他者とともに考える対話能力を身につけている。
- ・批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
- ・論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
- ・課題発見・解決に幅広い関心と高い意欲で取り組み、社会のなかで主体的に行動することができる。

【通信教育課程】

最終学年の者が各学年に定められた卒業に必要な単位を全て修得した場合は、卒業としている。卒業所要最低単位の合計は、124単位である。

また、以下のとおりディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定めている。

1. 専門的な知識を理解し深めることができる。
2. 専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
3. 制作・研究を深め広げる技能を身につけている。
4. 他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
5. 批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
6. 論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
7. 制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>学生に配付冊子「履修・学修ガイドブック」 大学 web サイトにて掲載（造形学部、造形構想学部） https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/policy/ https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate-ctsi/policy/</p> <p>【通信教育課程】 通信教育課程 web サイトにて掲載 https://cc.musabi.ac.jp/admission-new/outline/policies</p>
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武蔵野美術大学
設置者名	学校法人武蔵野美術大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/financial/
収支計算書又は損益計算書	インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/financial/
財産目録	インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/financial/
事業報告書	インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/report/
監事による監査報告(書)	インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2020年度 事業計画 対象年度:2020年度)
公表方法:インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/report/
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/effort/self_evaluation/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:インターネットで公表 https://www.musabi.ac.jp/outline/effort/external_evaluation/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 造形学部、造形構想学部
教育研究上の目的 (公表方法： ・大学 web サイトにて掲載（造形学部、造形構想学部） https://www.musabi.ac.jp/outline/about/regulation/ ・学生に配付する冊子「履修・学修ガイドブック」、学生手帳 【通信教育課程】 ・通信教育課程 web サイトにて掲載 https://cc.musabi.ac.jp/admission-new/outline/policies ・学生に配付する冊子「学生ハンドブック」)
(概要) 学則に、教育研究上の目的を定めている。 武蔵野美術大学は、美術、デザイン及び建築に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、人格の完成を図り、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造発展、国家社会の福祉に貢献することを目的とする。 【通信教育課程】 通信教育課程規程に、教育上の目的を定めている。 武蔵野美術大学は、造形学部通信教育課程を設置し、教育基本法に則り、学校教育法第 84 条の規定により通信の方法によつて、造形に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、人格の完成を図り、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造発展、社会の福祉に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： ・大学 web サイトにて掲載 https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/policy/ https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate-ctsi/policy/ ・学生に配付する冊子「履修・学修ガイドブック」 【通信教育課程】 ・通信教育課程 web サイトにて掲載 https://cc.musabi.ac.jp/admission-new/outline/policies)
(概要) 本学では、二学部制（造形学部、造形構想学部）であり、学部ごとに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。 ●造形学部のディプロマ・ポリシー 教育目標の実現のため編成されたカリキュラムのもと、設定された科目を履修し、卒業制作または卒業論文・研究を提出したもので、卒業に必要な単位を修得したものに卒業を認め学士（造形）の学位を授与する。具体的には、造形分野における独自の探求を行い、創造的な表現活動を実現するために、以下の 7 点とする。

- ・専門的な知識を理解し深めることができる。
- ・専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- ・制作・研究を深め広げる技能を身につけている。
- ・他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
- ・批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
- ・論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
- ・制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

●造形構想学部のディプロマ・ポリシー

創造的思考力の応用発揮において独自の探求を行い、社会的イノベーションに寄与しうる人材として以下の7点について評価し、学位を授与する。

- ・専門的な知識を理解し深めることができる。
- ・専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- ・創造的思考力を深め広げる技能を身につけている。
- ・他者に伝える表現能力及び他者とともに考える対話能力を身につけている。

【通信教育課程】

以下のとおりディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定めている。

1. 専門的な知識を理解し深めることができる。
2. 専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
3. 制作・研究を深め広げる技能を身につけている。
4. 他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
5. 批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
6. 論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
7. 制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：

- ・大学 web サイトにて掲載（造形学部、造形構想学部）
<https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/policy/>
<https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate-ctsi/policy/>
- ・学生に配付冊子「履修・学修ガイドブック」

【通信教育課程】

- ・通信教育課程 web サイトにて掲載
<https://cc.musabi.ac.jp/admission-new/outline/policies>)

（概要）

本学では、二学部制（造形学部、造形構想学部）であり、学部ごとにカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定めている。

●造形学部のカリキュラム・ポリシー

造形の各分野を専攻するにあたっては、総合的判断力・批判力を養うために広く諸学問を学ぶ〔文化総合科目〕、造形という大きな視点から専門性の位置づけや基礎を確認するために、自分の専攻とは異なった領域や他学科の開設する授業を学ぶ〔造形総合科目〕、個々の学科が独自に専門的能力を追求する〔学科別科目〕の三者をバランスよく学修することによりディプロマ・ポリシーを実現する。

1. 専門分野の基盤を独自のかたちで構築するため、文化や諸科学について総合的に学修する科目
2. 専門分野の基盤を独自のかたちで構築するため、他者に伝える表現能力および他者とも

もに考える対話能力を身につける科目

3. 他の領域にも広く目を開き経験することによって、造形を総合的に捉えることを目的とし、制作・研究を深め広げる技能を身につける科目

4. 専門家として欠くことのできない専門的基礎理論・表現方法などを学習し、専門的な知識を理解し深める科目

5. 論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想を行う科目

6. 制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、学修の集大成として社会のなかで主体的に取り組む科目

7. 学修の集大成として批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定する科目

こうした有機的な科目群の結びつきと展開性は、本学の教育の大きな特徴であり、教育理念及び教育目標に基づくものである。

●造形構想学部のカリキュラム・ポリシー

総合的な造形教育によって、観察力・鑑識力や価値判断力を涵養し、まだ見ぬものへの想像力やイメージ形成力、言語・造形言語によるコミュニケーション力及びプレゼンテーション力、発想力・柔軟性・粘り強さを身につける。そして、新たな視点からの着想と徹底した実践教育により、美術・デザイン領域を超えて、社会システムや人々の生活、思考におけるパラダイムの変革と創造的なイノベーションを行いうる「創造的思考力」を修得した人材を養成する。

【通信教育課程】

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を以下のとおり定めている。

●通信教育課程カリキュラム・ポリシー

通信教育課程は、通信教育という授業方法を通じて、造形学部のディプロマ・ポリシー達成を目途に科目を構成し、ポリシーを達成しようとするものです。

また造形の各分野を専攻するにあたっては、総合的判断力・批判力を養うために広く諸学問を学ぶ〔文化総合科目〕、造形という大きな視点から専門性の位置づけや基礎を確認するために幅広く造形について学ぶ〔造形総合科目〕、個々の学科・コースが独自に専門的能力を追求する〔学科別専門科目〕の三者をバランスよく学修することにより真の造形教育が成立すると考えます。

1. 専門分野の基盤を独自のかたちで構築するため、文化や諸科学について総合的に学修する科目

2. 専門分野の基盤を独自のかたちで構築するため、他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につける科目

3. 他の領域にも広く目を開き経験することによって、造形を総合的に捉えることを目的とし、制作・研究を深め広げる技能を身につける科目

4. 専門家として欠くことのできない専門的基礎理論・表現方法などを学習し、専門的な知識を理解し深める科目

5. 論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想を行う科目

6. 制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、学修の集大成として社会のなかで主体的に取り組む科目

7. 学修の集大成として批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定する科目

こうした有機的な科目群の結びつきと展開性は、本課程の特徴であり、武蔵野美術大学の教育理念及び教育目標に基づくものです。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：

- ・大学 web サイトにて掲載（造形学部、造形構想学部）

<https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/policy/>

<https://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate-ctsi/policy/>

- ・学生に配付する冊子「履修・学修ガイドブック」

【通信教育課程】

- ・通信教育課程 web サイトにて掲載

<https://cc.musabi.ac.jp/admission-new/outline/policies>)

(概要)

本学では、二学部制（造形学部、造形構想学部）であり、学部ごとにアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を定めている。

●造形学部のアドミッション・ポリシー

武蔵野美術大学は創立以来の教育理念に基づき造形芸術の専門教育を実践し、多くの優れた人材を輩出してきました。本学教育課程を主体的に修め努力できる次のような資質・能力を備えた学生を求めています。

1. 専門性と表現を深めるための基礎的な学力を身につけている人
2. 専門性を支える幅の広い造形力や教養を総合的に身に付けようとする人
3. 論理的思考・創造的思考を働かせて独自の表現で伝えようとする人
4. 文化の創造発展に寄与し、社会で活躍しようとする人

●造形構想学部のアドミッション・ポリシー

造形構想学部では、総合的な人間形成としての造形教育と社会に対する広範な知識の教授を通じて、美術・デザイン領域のみならず、広く社会問題の解決や新たな人類価値の創出を行いうる柔軟な発想や構想力を有する人材、すなわち創造的思考をもって社会的イノベーションに寄与する人材を養成する、という教育研究上の目的に鑑み、次のような学生を求めます。

1. 自らの目指す専門性を着実かつ大胆に深化、開拓しようとする人
2. 専門性を支える幅の広い創造的思考力や教養を身に付けようとする人
3. 文化・技術の創造発展・革新に寄与し、社会の様々な領域で活躍しようとする人

【通信教育課程】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を以下のとおり定めている。

武蔵野美術大学は創立以来の教育理念に基づき造形芸術の専門教育を実践し、多くの優れた人材を輩出してきました。本学教育課程を主体的に修め努力できる次のような資質・能力を備えた学生を求めています。

1. 専門性と表現を深めるための基礎的な学力を身につけている人
2. 専門性を支える幅の広い造形力や教養を総合的に身につけようとする人
3. 論理的思考・創造的思考を働かせて独自の表現で伝えようとする人
4. 文化の創造発展に寄与し、社会で活躍しようとする人

また通信教育課程では上記のポリシーに加え次のような学生を求めています。

5. 地理的・時間的な制約に関わらず向学心をもって学ぼうとする人
6. 社会人の再学習や生涯学習を目的にさらに学ぼうとする人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学 HP にて公開

<https://www.musabi.ac.jp/outline/organization/academic/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
造形学部	—	96人	16人	1人	37人	28人	178人
造形構想学部	—	12人	0人	0人	4人	2人	18人
造形学部通信教育課程	—	8人	0人	0人	5人	0人	13人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				730人			730人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学HPにて公開 http://profile.musabi.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
年2回の研究集会では、本学の共同研究助成及び教育改革助成を受けたグループや在外研究員の研究の成果を報告し、学内で展開されている様々な研究が具体的にどう行われているのか、教員が広く情報共有している。さらに年1回の全学研修会では、本学の全般的な問題を話し合い、報告書を作成している。している。いずれもFD委員会が中心となり、全学的に取り組んでいる。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
造形学部	848人	889人	104%	3732人	3985人	106%	32人	5人
造形学部 通信教育課程	410人	222人	54%	2525人	2387人	94%	505人	219人
造形構想学部	152人	164人	107%	304人	323人	106%	0人	0人
合計	1000人	1053人	105%	4036人	4308人	106%	32人	5人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
造形	1027人 (100%)	74人 (7%)	597人 (58%)	356人 (35%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

合計	1027 人 (100%)	74 人 (7%)	597 人 (58%)	356 人 (35%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 武蔵野美術大学大学院、東京藝術大学大学院、任天堂株式会社、凸版印刷株式会社、セガグループ				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
造形学部	1042人 (100%)	893人 (86%)	91人 (9%)	58人 (5%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、造形学部と造形構想学部の二学部制をとっており、授業計画の作成過程や公表時期は、以下の通り同様な対応をとっている。</p> <p>●授業計画のスケジュール</p> <p>7月：全学部・全学科対象の教務委員会・教授会にて、教育課程編成の方針確認</p> <p>9月：教務委員会にて、教育課程編成にもとづき授業計画の作成方法の他、成績評価の方法や基準について確認</p> <p>12月～1月：教員より授業計画や、カリキュラムマップの提出</p> <p>2月：教員より提出された授業計画を事務所管（教務チーム）にて内容の確認</p> <p>3月：シラバス公開</p> <p>【通信教育課程】</p> <p>通信教育課程においては、授業計画の作成過程や公表時期は、以下の通り行っている。</p> <p>●授業計画のスケジュール</p> <p>7月：通信教育課程教務委員会にて、次年度新規開講科目・廃止科目の審議、及び次年度開講科目・担当教員等の授業計画提出を依頼</p> <p>10月：シラバス作成依頼</p> <p>11月～1月：教員より提出された授業計画を事務所管（通信教育チーム）にて内容の確認</p> <p>3月：シラバス公開</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本学では、造形学部と造形構想学部の二学部とも、同様の成績評価基準及び指針を定めている。

成績は素点 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。学生へは秀、優、良、可、不可の 5 段階の評価で成績を開示している。秀・優・良・可の評価が得られた科目については合格とし、その科目について定められた単位が授与される。試験を受験しなかった場合は「未受験」、出席が足りない場合は「対象外」となり、いずれも不合格としている。

最終学年の者が各学年に定められた卒業に必要な単位を全て修得した場合は、卒業となる。また、学部ごとにディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定めている。

【通信教育課程】

●成績評価基準及び指針

成績は素点 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。学生へは秀、優、良、可、不可の 5 段階の評価で成績を開示する。秀・優・良・可の評価が得られた科目については合格とし、その科目について定められた単位が授与される。最終学年の者が各学年に定められた卒業に必要な単位を全て修得した場合は、卒業となる。また、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定めている。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
造形学部	日本画学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	油絵学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	彫刻学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	視覚伝達デザイン学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	工芸工業デザイン学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	空間演出デザイン学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	建築学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	基礎デザイン学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	芸術文化学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	デザイン情報学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	油絵学科 (通信教育課程)	124 単位	④・無	1年間 40 単位
	芸術文化学科 (通信教育課程)	124 単位	④・無	1年間 40 単位
	デザイン情報学科 (通信教育課程)	124 単位	④・無	1年間 40 単位
造形構想学部	クリエイティブ イノベーション学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
	映像学科	124 単位	④・無	1年間 49 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学 web サイトにて掲載 https://www.musabi.ac.jp/student_life/curriculum/info/disclose/ 【通信教育課程】 通信教育課程 web サイトにて掲載		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：インターネットで公表

<https://www.musabi.ac.jp/outline/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(1) 2019 年度以降の入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
造形学部	日本画学科	1,185,000 円	300,000 円	389,400 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	油絵学科	1,185,000 円	300,000 円	408,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	彫刻学科	1,185,000 円	300,000 円	421,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	デザイン情報学科	1,185,000 円	300,000 円	421,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	視覚伝達デザイン学科	1,185,000 円	300,000 円	395,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	工芸工業デザイン学科	1,185,000 円	300,000 円	413,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	空間演出デザイン学科	1,185,000 円	300,000 円	385,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	建築学科	1,185,000 円	300,000 円	385,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	基礎デザイン学科	1,185,000 円	300,000 円	385,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	芸術文化学科	1,185,000 円	300,000 円	385,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
造形構想学部	映像学科	1,185,000 円	300,000 円	421,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	クリエイティブイノベーション学科	1,185,000 円	300,000 円	413,900 円	その他(実習費・維持費・施設費)

※2 年次以降は入学金を除いた金額

(2)2018 年度以前の入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
造形学部	日本画学科	1,185,000 円	円	363,000 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	油絵学科	1,185,000 円	円	382,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	彫刻学科	1,185,000 円	円	395,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	映像学科	1,185,000 円	円	395,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	デザイン情報学科	1,185,000 円	円	395,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	視覚伝達デザイン学科	1,185,000 円	円	369,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	工芸工業デザイン学科	1,185,000 円	円	387,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	空間演出デザイン学科	1,185,000 円	円	359,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)
	建築学科	1,185,000 円	円	359,500 円	その他(実習費・維持費・施設費)

	基礎デザイン学科	1,185,000円	円	359,500円	その他(実習費・維持費・施設費)
	芸術文化学科	1,185,000円	円	359,500円	その他(実習費・維持費・施設費)

(3)通信教育課程 2020年度以降の入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
造形学部 通信教育 課程	油絵学科	300,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額
	工芸工業デザイン 学科	300,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額
	デザイン情報学科	300,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額
	芸術文化学科	300,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額

(4)通信教育課程 2019年度以前の入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
造形学部 通信教育 課程	油絵学科	285,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額
	工芸工業デザイン 学科	285,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額
	デザイン情報学科	285,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額
	芸術文化学科	285,000円	30,000円	円	2年次以降は入学金を除いた金額

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の修学に係る支援としては、授業内容や専門分野に関する質問や相談に個別に教員が応じるオフィスアワー制度を設けている。 各学科(研究室)には、助手や助教、スタッフが常駐していて、授業内容や専門分野に関する質問や相談にも対応している。 履修相談や履修制度については、(教務チーム)事務窓口でも対応している。
【通信教育課程】 各学科(研究室)には、助教やスタッフが常駐していて、授業内容や専門分野に関する質問や相談にも対応している。 履修相談や履修制度については、(通信教育チーム)事務窓口でも対応している。 小さい子供を持つ学生に対しては、夏期スクーリング時には一時保育施設の紹介を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 各種ガイダンス・講座、学内会社説明会の開催、ポートフォリオ作成支援・作家活動支援プログラムの実施、正課科目「キャリア設計基礎」の開設、個人面談の実施等を通して、進路についてバックアップしている。また、学内サイト「進路情報システム」で、求人情報・イ

ンターンシップ情報等を公開している。

【通信教育課程】

大学に寄せられる求人情報を web システムにより、通信教育課程の学生も閲覧することができる。

また、進路セミナーの開催や、通学課程が実施する進路イベントの参加案内も行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 鷹の台キャンパス、市ヶ谷キャンパスにおいて、保健室では定期健康診断を実施するほか、保健師による相談・応急治療を行っている。鷹の台キャンパスでは、予約により、校医による健康相談を行っている。

また、鷹の台キャンパス、市ヶ谷キャンパスにおいて臨床心理士による学生相談室を設置し、相談者のプライバシーに配慮し Web の所定フォームから予約を行い、専用の相談室 2 部屋を用意し学生の相談に対応している。学生の心身の健康を保つ上で必要に応じ学生相談室は保健室や校医とも連携している。

【通信教育課程】

心身的な事情により、スクーリング受講に不安を抱える学生に対して、低層階教室への配当、担当教員への配慮内容の伝達等を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
年		単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
人	人	人	人	人	人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
成績評価の基準・方法 （概要）
卒業・進級の認定基準 （概要）
学修支援等 （概要）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。